教育広報 南会

編集・発行　福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者　佐　藤　則　之
編 集 協 力　市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会

『　丁寧で豊かな生活７年目　』

下郷町教育委員会教育長
渡　部　岩　男

間もなく東日本大震災から７年目になる。それで変わったところ、変わらなかったところ、変わるべきなのに変われなかったところ、変わりたくないのに変えられてしまったところ、変わったのに気づいていないところ、ただ変わったような気になっているところ等を整理したいという気持ちも出てきた。まず、努力すれば幸せになれると思ってきたが、本当は幸せだから努力できたのだと感じた。滅多に着ない１枚のよそいきを引っ張り出し、毎日履く靴やハンカチ等で一つでも気に入ったものを身につけたいと思った。モーニングコーヒーを飲み始めた。日常こそ丁寧に豊かに生きたいと思うようになった。

子どもの日常も変わっただろうか。いつの時代も子どもは、教育・指導・注意される存在だ。大人は可愛くて仕方ないからこそ、よくないところを探して注意し、幸せになってほしくて指導し、時には脅して不安をあおって教育してきた。次々と課題が提示され、大人は子どもの尻を叩き、子どもは課題を追いかける。それで自ら学び、自ら考え、自ら行動する人材が育つだろうか。

子どもにも丁寧で豊かな日常を送ってほしい。近年、成果主義や効率主義を無批判に取り入れて改革したような気になっている風潮を感じるが、短時間の成果に即報酬を与えるということは、裏を返せば時間をかけて待つことは許されない損失だということになる。大器晩成は死語になる。待つ能力は高等動物である証のはずなのに、そのような風潮は教育観や人間観としてもあまりにも浅いものと思わざるを得ない。子どもの現状を肯定してあげたい。できたから褒めるのではなく、褒めるからできるようになる。丁寧に観察・傾聴し、言葉を選んで褒めて、できるのを待つような豊かな生活を一緒に送る。それは変わるべき７年目の姿であってほしいと思う。

『 南会津に赴任して 』

福島県教育庁南会津教育事務所
総務次長兼総務社会教育課長
高　橋　正　敏

南会津教育事務所に赴任して、一年が経とうとしています。３０年を超える県職員生活において南会津での勤務は初めてで、教育の現場はどんなものか、雪は大丈夫かなど不安ばかりでしたが、事務所では、南会津をこよなく愛する職員に囲まれ、南会津の良さをたたき込まれるばかりでなく、聞くと丁寧に何でも教えてくれるなど南会津を知り尽くしている職員と一年過ごしてみると、仕事も生活も、なんともいえない居心地の良さに浸っている状況です。

春は歓迎会、夏は旅行、秋は郷土料理、冬は忘年会など四季折々の良さに併せ、趣向を凝らした宴の席もしっかり用意されており、南会津の風土に地酒は本当に最高です。今までいろいろな業務を経験し、その都度、気づかされることや発見がありました。しかし今までと違い、自分の小・中学校時代の記憶がより鮮明によみがえるとともに自分自身に刺激を受けることが多くありました。

「あづま号」の巡回に立ち会ったときには、子どもたちの「何冊借りられるの」「もっと借りたい」など本に対するきらきらした眩しいばかりの表情にふれ、書評を見て読んだ気になったり、本を購入しても「積ん読」のままである自分の読書に対する気持ちを目覚めさせるものがありました。（その後読書が増えたかは別ですが）

また、放課後子ども教室を訪問したときも、学年を超えて一生懸命遊んでいる姿は、こちらが気持ちよくなるほどでした。そして、いきいきとした子どもたちの姿を通し、健やかな成長に日々力を尽くされている先生・指導員の方々には感動するばかりです。

今後とも、南会津を愛する楽しい職員とともに、チーム一丸となって仕事に取り組んでいきたいと考える年度末です。

南会津がつむぐ　南会津ならではの学校教育！
～　郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子どもの育成　～

「学びのスタンダード」推進事業
下郷町立楢原小学校・下郷中学校

域内の多くの学校で「授業スタンダード」が活用されていますが、この「授業スタンダード」を基盤とした児童生徒の学力向上を町全体で推進しているのが下郷町です。

下郷町では下郷中学校をパイロット校Ⅰ、楢原小学校をパイロット校Ⅱ、旭田小学校と江川小学校を推進協力校として、下郷町全体で「学びのスタンダード」推進事業を推進しています。推進教師である、下郷中学校野中ゆみ先生、楢原小学校大関智幸先生を中心に、「授業スタンダード」の日常的な活用はもちろん、中学校国語科における教科タテ持ちの授業、小学校算数科における教科担任制などを実践し、着実に成果を上げています。また「学びのスタンダードだより」も発行され、町内全教員の共通理解のもと授業の質的改善に取り組んでいます。１０月２７日（金）には楢原小学校で、１１月１７日（金）には下郷中学校で授業公開が行われ、域内に成果を発信しました　今後は、「家庭学習スタンダード」の活用にも重点をおき、本事業を推進していく予定です。下郷町での取組が、域内の児童生徒のより一層の学力向上につながることを期待します。

道徳教育地区別推進協議会推進校の実践
檜枝岐村立檜枝岐小・中学校

『私は道徳が大好きである。「道徳教育の推進」に取り組む機会を与えていただいたことは、大変ありがたいことであり、感謝している。（中略）これから、「道徳科」に向けて、道徳の授業の大切さや面白さをもっと理解してほしい。やはり授業を率先して行ってこそ、その楽しさや喜びを感じるのだと思う。本校の職員のように。』

これは、学校・家庭・地域が一体となった道徳教育の具現化を図ることを目的として県教育委員会より発行する、道徳教育家庭用リーフレットに掲載された檜枝岐小・中学校橘成美校長の言葉です。「つなぐ」をキーワードに、「学校」と「家庭」だけでなく「地域」も一体となって道徳教育に取り組んでいただきました。

１０月６日（金）の地区別推進協議会では、３つの授業で、「質の高い多様な指導方法」を具体的に提案していただき、各校にとって大いに参考となるものでした。

「特別の教科道徳」が、いよいよ来年度からは小学校で、再来年度からは中学校で完全実施となります。檜枝岐小・中学校の実践を模範にして、全教員が一丸となり、まずは授業をやってみる。そして、檜枝岐小・中学校の職員のように、楽しさや喜びを感じながら３５時間(小１は３４時間)を確実に実施して、「学校」「家庭」「地域」が一体となって取り組む道徳教育を実践してほしいと思います。

「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」
只見町立明和小学校

「自然と人間がうまく共生できるような防災・減災の在り方を模索していきたい。」

これは、１１月１５日（水）に三春町の環境創造センター（コミュタン福島）で行われた放射線・防災教育フォーラムで、明和小学校の代表児童が述べた言葉です。

平成２９年度の防災教育実践協力校として取り組んでいただいた明和小学校では、只見の雪害や新潟・福島豪雨について学んでいく中で、地域にひそむ災害の「怖さ」について知りました。同時に、自然がもたらす「恩恵」にも改めて気付き、只見のよさを再確認しました。そして、自然と人間が共生できるような防災･減災が必要だと感じ、「明和防災マップ」や「パンフレット」を作成し、地域に発信してきました。

今後、明和小学校を含めた県内７校の放射線･防災教育実践協力校の取組を掲載した「実践事例パンフレット」が発行されます。また、義務教育課 Web サイトにも詳しい実践資料が載りますので、各校において放射線教育・防災教育の参考にしてください。

＜放射線・防災教育フォーラムに参加した５・６年生＞